

小学校第1学年 音楽科 学習指導案

期 日 平成 25 年 10 月 23 日(水) 第 5 校時

場 所 山鹿市立山鹿小学校 1 年 2 組教室

指導者 教諭 坂崎 友里

1 題材名

「いろいろなおとにしたしもう」(教育芸術社)

教材 「おてぶしてぶし」他(わらべうた)

「シンコペーテッドクロック」

「きらきらぼし」

2 題材について

(1) 題材観

本題材は、音楽を構成しているいろいろな音に対する興味・関心を育てながら、音色の違いをとらえて表現の仕方を工夫していくことをねらいとしている。学習指導要領の、A表現(1)ア「範唱を聴いて歌ったり、階名で模唱したり暗唱したりすること。」(3)イ「音を音楽にしていこうことを楽しみながら、音楽の仕組みを生かし、思いをもって簡単な音楽をつくること。」とB鑑賞(1)ウ「楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲や演奏の楽しさに気付くこと。」に関する題材である。

「シンコペーテッドクロック」は、アメリカの作曲家、ルロイ・アンダソンによるもので、ときおり不規則に時を刻む時計の様子を楽しく音楽化した曲である。秒針の音をウッドブロックで表したAの部分と、時計のベルの音をトライアングルで表したBの部分でA - B - Aと繰り返す、複合三部形式である。

「きらきらぼし」は、原曲はフランス民謡といわれているが、そのリズムは「The ABC Song」など、様々な歌詞で広く親しまれており、多くの児童が一度は耳にしたことのある曲で、歌詞唱がしやすい教材である。また、本教材の歌詞のイメージは、鈴やトライアングル、ハンドベルなどの金属性の打楽器の音と結び付けやすく、透き通るようなそれら楽器の音色の魅力を感じ取りながら音楽づくりの楽しさを味わうのに適した教材である。

わらべ歌はわが国で子どもたちが歌って遊びながら伝統的に歌い継がれてきた音楽である。今回選曲した3曲「うちのうらのくろねこが」「チンチロリン」「おてぶしてぶし」は、音色やリズム、音の構成について、わらべうたに親しみながら、身に付けさせるのに適している。

(2) 系統観

1 年 (10 月)	2 年 (10 月)	3 年 (10 月)
題材名 いろいろなおとにしたしもう A表現(1) アイ (2) イウ B鑑賞(1) アウ 「シンコペーテッドクロック」 「きらきらぼし」 「おてぶしてぶし」他 (わらべうた)	題材名 いろいろな音やリズムにしたしもう A表現(1) ア (2) ア B鑑賞(3) イウ 「山のポルカ」 「森のカーニバル」	題材名 いろいろな音色をかんじとろう A表現(1) アイ (2)ウ (3)アイ B鑑賞(1) アイウ 「トランペット吹きの休日/アレグロ」 「おかしのすきなまほう使い」

(3) 児童観

本学級の児童は、男子 17 人(1 名が特別支援学級在籍)、女子 14 人、計 31 人である。歌を歌ったり、音楽を聴いたりすることを好む児童が多く、音楽がかかると、リズムに合わせて体を動かしながら歌うなど、積極的に音楽に親しもうとする姿がよく見られる。以下は、事前に行った音楽の授業に関する意識調査の結果である。(28 人実施)

○音楽の授業は好きですか。

好き 28 人 嫌い 0 人

○音楽の授業でどんなことが好きですか。

歌うこと。新しい曲を聴くこと。ぞうさんの歌。海の歌とぶんぶんぶんの歌。じゃんけんで勝つこと（かもつれっしや）。鍵盤ハーモニカ。リズムを合わせること。

以上のように、多くの児童は歌うことや、じゃんけんなどのゲーム性の高い活動を好んでいることが分かった。また、普段から音楽がかかると自然と体をゆらし、手を動かして指揮のまねをする様子が見られ、自分なりに曲の雰囲気やリズムなどを感じ取りながら歌おうとしている。一方で、友達の声を聴きながら正しい音程で声を合わせて歌うことは難しく、音程がはずれ、特定の児童の声だけが目立つことがある。

(4) 指導観

- 「シンコペーテッドクロック」では、ウッドブロックの音に合わせ、体を動かすことで、ウッドブロックの音色や、ときおり不規則になるリズムの面白さを感じさせるようにする。
- ゲームの要素を取り入れたわらべうたを用いて、学習意欲を高める。また、わらべうたで、強弱、リズム、音色を感じ取らせ、鑑賞や音楽づくりに生かすようにする。
- 「きらきらぼし」では、ハンドサインを用いて、音の高低を感じ取らせるようにする。また、星に関連した写真や映像を見せることで、「きらきらぼし」の雰囲気をつかませ、音楽づくりに生かす。
- 音楽づくりの活動では、音をド、レ、ミとソ、ラ、シの2種類に限定し、三つの音の組み合わせやハンドベルの鳴らし方等を工夫することで、お星様のイメージに合う音楽づくりへの手だてとする。

【視点1】 思考力・判断力・表現力等の育成・	【視点2】 学習評価と指導の改善	【視点3】 情報活用能力の育成
【視点1】 本題材で目指す豊かなかかわり合いのある授業とは、児童が、わらべうた遊びの中で音楽や仲間とかかわり合いながら音色やリズムなどの音楽の諸要素を学ぶ活動と、体験的な学習活動を通して学習課題を達成するために、相互に考えたり、表現したりする学習活動である。具体的には、学習過程「分析」の場面で、体験的に知識や技能を習得し、経験の場面で、それを活用して、よさを味わって聴いたり、表現を工夫したりする授業である。	【視点2】 本題材で目指す思考の過程を評価できる授業づくりのために、パフォーマンス評価を用いる。具体的には、パフォーマンス課題を設定し、アセスメントシートの記入や児童の学習活動の観察を基にルーブリックを用いて評価する。	【視点3】 本題材で目指す主体的な情報活用を促す授業づくりのために、曲のイメージをふくらませるための情報提供を行う。具体的には、情報を視覚的に伝えるために、ICT 機器などの教具の工夫を行っていく。

3 題材の目標と評価規準

題材の目標	いろいろな音やリズムに関する興味・関心を育てるとともに、楽器の音の鳴らし方や組み合わせを工夫しながら、演奏することができるようにする。
音楽への関心・意欲・態度	①いろいろな音に関心をもって聴いたり、様子を思い浮かべて音の出し方を工夫しながら表現したりする学習に進んで取り組もうとしている。
音楽表現の創意工夫	①ハンドベルの音色をお星様の雰囲気と関わらせながら、自分の思いをもって簡単な音楽をつくる工夫をしている。
音楽表現の技能	①正しい音程で歌詞唱、階名唱ができる。 ②打楽器の音色を感じ取り、曲の間奏となるように表現したり、つくった旋律をつないだりして、音を音楽にしている。
鑑賞の能力	①楽曲を特徴付けている楽器の音色に注目しながら聴き、音楽の楽しさに気付いて聴いている。

4 指導・評価の計画（6時間扱い 検証授業5／6）

次	時	学習活動	指導上の留意点 【三つの視点から】	評価の観点（評価方法） B 基準
1	1	○わらべうた遊びを楽しむ。 ・「うちのうらのくろねこが」	【視点1】わらべうた遊びを通して「リズム」を知覚させる。 【視点2】リズムカードや身体表現を見取って授業の改善に生かすようにする。	音楽への関心・意欲・態度 (発表・観察・自己評価) わらべうたの特徴を生かした表現に主体的に取り組もうとしている。
2	2	○音楽の諸要素に着目したわらべうたで遊ぶ。 ○楽器の音色やリズムに気を付けながら、楽曲全体の気分を楽しむ。 ・「シンコペーテッドクロック」 「きよくのよさやおもしろさを感じとり、それをからだであらわそう。」	【視点1】わらべうた遊び「ちんちろりん」を通して「音色」を知覚させる。 【視点2】パフォーマンス課題を設定する。	鑑賞の能力 (観察・アセスメントシート) ・音楽から聞こえてくる、いろいろな音に関心をもって、楽しんで聴こうとしている。 ・楽器の音色やリズムに気を付けて聴き、楽曲のおもしろさを味わって聴いている。
3	3	○星の様子を思い浮かべながら歌詞唱する。 ・「きらきらぼし」	【視点3】星を見た経験を思い出したり、挿絵を見たりして、曲のイメージをふくらませるようにする。	音楽への関心・意欲・態度 (ワークシート・発表) 感じ取ったことを発表し、主体的に歌おうとしている。
	4	○正しい音程に気を付けながら階名唱をする。 ・「きらきらぼし」	【視点2】ハンドサインを取り入れ、音程を正しくとらえるようにする。	音楽表現の技能 (演奏聴取・演奏観察) 音程に気を付けながら、ハンドサインに合わせて歌っている。
	5 本時	○わらべうたで遊ぶ。 ○三つの音を使い、ハンドベルで鳴らして試しながら、星空のお話に合うように音楽づくりを工夫する。 三つのおとをくみあわせて、きらきらぼしのまえとあとにあうおんがくをつくろう。	【視点1】わらべうた遊び「おてぶしてぶし」を通して「強弱」「構成音」を知覚させる。 【視点1】グループ活動で学び合わせる。 【視点2】パフォーマンス課題を設定する。	音楽表現の創意・工夫 (ワークシート・演奏観察) 三つの音を使って音楽をつくり、選んだ場面に合うように工夫しようしたり、友達の演奏のよさに気付いたりしている。
	6	○つくった曲の発表会をする。	【視点1】グループごとの成果発表会で学び合わせる。また、「きらきらぼし」の歌の前奏後奏として演奏させることで、一つの星空の音楽表現と発展させる。	音楽表現の技能 (演奏観察・自己評価) 楽曲の気分にあうような表現で演奏している。

5 本時の学習

(1) 目標

三つの音や休符を組み合わせて音楽をつくり、音の強さや速さ等による雰囲気の違いに気付きながら、それぞれの場面に合うように工夫している。

(2) 展開

過程	学習活動	主な発問・指示等	指導上の留意点及び評価 【三つの視点から】	備考
経験 10分	1 わらべうたで遊ぶ。	○「おてぶしてぶし」で遊びましょう。 ○この曲はいくつの音でできているでしょうか。	【視点1】ハンドサインを取り入れて、三つの音に気付かせたり、強弱を遊びに取り入れたりしながら、音楽づくりへとつなげる。	
分析 20分	2 本時のめあてを知る。 まえ：おほしさまがそらにあらわれて、かがやきはじめたよ。 あと：おそらがあかるくなって、おほしさまがみえなくなってきたよ。 三つのおとをくみあわせて、きらきらぼしのまえとあとにあうおんがくをつくろう。		○ハンドベルでドレミ、ソラシの2パターンの「おてぶしてぶし」を演奏してみせ、活動に興味、関心を持たせる。	
再経験 10分	3 音楽づくりをする。 (1) 三つの音や休符を組み合わせせてお星様の曲をつくる。 (2) お話のようすに合うように強さ、速さなどを工夫する。	○3人で、三つの音を並べ替えてみましょう。 ○お空の様子がよく分かるようにいろいろ工夫してみましょう。	○以後の活動が円滑に進むように、前と後のどちらをつくるかは教師が指定する。前はドレミ、後はソラシを使って音づくりをさせる。 【視点1, 2】 ・お話に合う音楽に近づくよう、カードをならべ、3人でいろいろな音色を試しながら音楽をつくる。教師は、カードの操作を見取って支援に生かすようにする。 ・工夫の方法が分からないグループには用意したヒントカード（音の使い方、楽器の鳴らし方、つよい・よわい、はやい・おそい）を示すようにする。 ・よくできていたグループをいくつか紹介する。	カード ハンドベル
評価 5分	4 代表グループの演奏を聴く。 5 本時を振り返る。	○お友達のグループの演奏をしっかりと聞きましょう。 ○お星さまの様子が曲に表れていましたか。 ○お友だちの演奏の、よかったところを言いましょう。 ○お友だちの演奏を聞いて、変えたいところがある人は変えてもよいです。 ○工夫したことをシートに書きましょう。また、つくった音楽は選んだ場面に合っていたか振り返り、そのわけも書きましょう。	評価：観察・発表・アセスメントシート B基準 三つの音を使って音楽をつくり、選んだ場面に合うように工夫しようとしたり、友達の演奏のよさに気付いたりしている。 A基準 お話の場面に合うように、強弱や音色の工夫など、音楽の諸要素を取り入れ、音楽をつくる工夫をしている。 < B基準に達していない児童への手立て > ・イメージを持たせるためのヒントカードを使う。	ヒントカード アセスメントシート